

ユネスコスクールに加盟申請した経緯

特別支援学校の最終目標

↓


児童生徒の「自立・社会参加」

本校の特徴は「鹿田山」

児童生徒とNPO法人鹿田山環境保全ネットワークとの連携

- ① 全学部で行う菜種まき
- ② 高等部とPTAが参加するフットパス（遊歩道）整備作業
- ③ 大間々高校との交流を行う、さつまいも植え&掘り
- ④ 環境保全班による綿花栽培、トイレ清掃、花壇整備、フットパス作業
- ⑤ 農耕園芸班による花の提供
- ⑥ 各学部での鹿田山を教材とした授業

これらの教育活動を認知してもらい、継続しながらより深化していく。



鹿田山での活動

菜種まき (小中高)

フットパス整備作業 (高&PTA)

綿花栽培 (高)

さつまいも栽培 (高)



学校教育目標

児童生徒一人一人の能力や個性を尊重し、明るくたくましく生きる人間を育成する。

- 1 健康で心豊かな人間の育成に努める。
- 2 基本的な生活習慣の確立を図る。
- 3 集団生活に進んで参加できる態度を養う。
- 4 日常生活や社会生活に必要な知識と技能を養う。
- 5 興味・関心を育て、自ら楽しむ意欲を養う。

中央教育審議会総会
「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）

急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められているとされました。

学校教育が育成する資質・能力

- 自分のよさや可能性を認識する
- 他者を価値のある存在として尊重する
- 多様な人々と協働する
- 様々な社会的変化を乗り越える
- 豊かな人生を切り拓く
- 持続可能な社会の創り手となる

目指す学校像（本校）

- 1 児童生徒が自身の願いや思いを大切に、生き生きと主体的に学ぶことができる学校
- 2 一人一人の自立に向けて、能力や可能性を最大限に伸ばすことができる学校
- 3 保護者・地域から信頼され、共生社会において共に歩む開かれた学校

目指す児童生徒像

- 1 明るく、主体的に学校生活や学習に取り組むことができる児童生徒
- 2 集団生活の中で人と調和し、共に様々な活動に参加できる児童生徒
- 3 生活に必要な知識と技能を身につけ、健康で豊かな社会生活ができる児童生徒

ESDの推進

- 1 **人権を尊重し**、児童生徒・保護者のニーズに応じたきめ細やかな指導の推進
- 2 ユネスコスクールとして**SDGsの視点**に立った授業の実践とICT教育の推進
- 3 自立と**社会参加**に向けて一人一人の障害の状況に応じた継続的な指導の充実
- 4 **安心、安全な教育環境**と危機管理体制の整備
- 5 **地域・関係機関との連携の促進と交流活動の充実**

ESDの目的

- 人々と共に生活してゆくための資質・能力を身に付ける。
- 持続可能な開発を学び、人々と協働し社会に参加する。



- 自分のよさや可能性を認識し、他者を価値のある存在として尊重するとともに、豊かな人生を切り拓く。**（健康で心豊かに生きる力）**
- 様々な社会的変化を乗り越え、人々と共に生活してゆくための資質・能力を身に付ける。**（生活する力）**
- 多様な人々と協働し、社会に参加するとともに、持続可能な社会の創り手となる。**（社会に参加する力）**

身に付けたい資質・能力 （コンピテンシー）

- **健康で心豊かに生きる力**
- **生活する力**
- **社会に参加する力**
（地域の人々との協働、パートナーシップ）

令和5年度のテーマ

「鹿田山の保全活動や地域の人々との協働を通して、共に生きてゆく喜びや心豊かにたくましく生活する力を身に付ける」

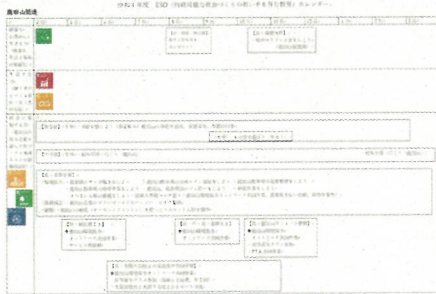
- ・鹿田山の保全活動...高等部
- ・地域の人々との協働...高等部、中学部、小学部

手段...PDCAサイクル

- ・ **「創造する」Plan**
教科等横断的なカリキュラムデザイン
(ESDカレンダー)
- ・ **「活動する」Do**
身近で具体的なSDGs活動(わたらせSDGs)
- ・ **「運用する」Check**
カリキュラム・マネジメント
(年間指導計画、単元計画、授業改善、学校評価のPDCAサイクル)
- ・ **「変容する」Action**
行動変容と意識改革

ユネスコスクールに加盟に向け、チャレンジ校として昨年度(R4)に行ってきた活動

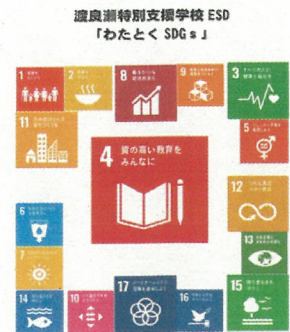
- ・ ESD(持続可能な社会の創り手を育む教育)カレンダーを作成
鹿田山関連、小・中・高学部、高作業学習



- ・ わたとくSDGs作成
各クラス掲示

- ・ 生徒版
わたとくSDGs作成

- ・ 学校のHPに
「わたとくSDGs」
→「わたとくESD」
「鹿田山」を作成



- ・ SDGsに関連した授業公開(小、中、高各学部教諭による)



- ・ 高等部での菜種油しぼり体験授業



- ・ 創価大学教育学部山内教授を迎えての授業研究会
「障害のある子が鹿田山で良い教育を受けて、社会に出ている。このことを発信してほしい。」

渡良瀬特別支援学校の魅力は、ユネスコスクール!

渡良瀬特別支援学校の魅力

魅力1 自然豊かな環境での学び
学校がみどり市笠懸町鹿田山の地に広がる鹿田山中腹に位置するため、四季折々の美しい自然を活用した学習活動を開校以来展開


魅力2 農業生産・環境保全活動を核とした教育
NPO法人鹿田山ネットワークと連携し、同法人が展開する農業生産活動・環境保全活動に参加

魅力3 自立・社会参加、共生社会の形成
小学部段階から継続的に鹿田山ネットワーク活動に取り組み、自ら課題を見だし、解決に取り組む児童生徒の育成を図り、教職員一丸となって共生社会の形成に寄与

渡良瀬特別支援学校の魅力1・2・3 ユネスコスクールの魅力1・2・3の重点活動

- 3 「地球市民教育、平和と調和の文化」
- 1 2 「持続可能な開発と特長可能なライフスタイル」
- 3 2 「異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解、尊重」

- ・SDGs
 すごろくゲーム研修
 (高等部の授業で
 行ったもの)
- ・指導案研修
 各自が作成した指導案を
 SDGsに関連付ける
- ・2030SDGs
 カードゲーム研修
 (講師3名来校：冬休み)



- ・高等部各作業班にてSDGsに関連した作品や
 掲示物を作成し、学習発表会で展示販売。

環境保全班：鹿田山での作業内容を一覧表にまとめて掲示
 綿花作業の綿織り・綿打ち実演と体験
 鹿田山NWからの委託で鹿田山産の菜種油と
 蜂蜜、オーガニックコットンハンカチを販売



ビーズ班：SDGsバッジ作りや紙工班の和紙の
 端切れを活用したコサージュ作り

縫製班：鹿田山で収穫した
 オーガニックコットン使用の
 マスコット製作

紙工班：給食の牛乳パックを使用した
 紙作品製作




エコリサイクル班：ペットボトル回収とキャップ集め
 (生徒会と協力して市の庁舎に届ける)
 リサイクル製品 (古新聞で袋や新聞紙薪) 作り



今年度 (R5) 行ってきた活動

①組織作り
 ・R4年度組織された「ユネスコスクール推進委員会」を学校運営組織
 「教務部」の係として位置づけた。

②鹿田山カレンダーを作成
 ・鹿田山での活動の様子を『報告用紙』にまとめユネスコ係に提出。
 ・年間を通して、他学部との鹿田山での活動を情報共有




全学部が使用する廊下に掲示し、お互いの活動を共有。

③鹿田山での活動で使用している教材の共有

・各学部、鹿田山で様々な活動を行っている。それらの教材を共有。

鹿田山ウォークラリー選手権

0-100mの距離(歩く時間)や距離(歩数)をPMDで撮影(さつ)し記録しよう!

1.あすまや 2.ひまわりひろば 3.おのりさんのお

安全第一
協力第二
正確第三

みどろくに会えよう!!!

鹿田山ラリー ミッション

新編鹿田山ウォークラリー

ミッション1: 夏の花の写真
ミッション2: 春の草の写真
ミッション3: 春の花の写真
ミッション4: ハヤシの葉脈の写真
ミッション5: あすまやの写真
ミッション6: クラスやグループみんなの集合写真
ミッション7: ナツツの山の写真
ミッション8: トイレの近くの草の写真
ミッション9: 鹿田山の道草の写真
ミッション10: 赤ブナシの地帯の草の写真

④研修部との協同

・8月校内研修講演会として

①「鹿田山の魅力とその周辺環境保全活動」
NPO法人鹿田山環境保全ネットワーク 顧問 細野様、堀田様

②「渡良瀬特別支援学校高等部の作業学習における『環境保全班』の活躍」
～自然豊かな鹿田山フットパスにおける取り組みの中で～
筑波技術大学名誉教授 荒木 勉様

⑤外部講師を招いての授業

・小学部では、フォレストリソース学校の講師(職員)に「触ってはいけない植物や動物」「昆虫の採り方と持ち方」などを教わった。

・高等部では、日本野鳥の会講師による講義と巣箱作り

⑥キャンペーン、国際デーへの取り組み

・書き損じハガキキャンペーン: 全校児童生徒保護者らに向けて、書き損じハガキ回収のお願いを配付。

・国連の記念日に関連した取り組み

①国際防災デー(10/13)として、11/8に全校で火災避難訓練を行い、その後消防署職員からの講話、小・中学部生は消防車見学、高等部は消火器の使用方法を実演体験した。

②世界人権デー(12/10)として、小学部では各グループでの学習、中学部・高等部では人権集会を行った。校長講話の中で世界人権デーに触れ、その後人権標語作成や人権啓発に関する動画視聴、小・中・高の児童生徒共同で「僕・私の得意なこと、好きなこと」を発表し合い『自分や他の人の大切さ』に気付けるような掲示物を作成し、玄関に掲示している。

ユネスコスクール係の方針としては、

ユネスコ申請は、
新しいことを始めるのではなく、
現在行っている活動を
「価値付け」「意味付け」していくもの。

高等部作業
綿花種まき
小学部が
飛び入り
参加!

学部間の情報共有を行い、
鹿田山での活動をさらに充実させて深め、
児童・生徒に還元していきたいと考えています。

高等部 作業学習『環境保全班』の実践紹介

鹿田山フットパス 整備作業

鹿田山駐車場整備作業 トイレ掃除 花たん整備

鹿田山 さつまいも畑 管理作業

鹿田山 綿花栽培 菜種作業

①鹿田山フットパス 整備作業

鹿田山遊歩道（フットパス）に「ウッドチップ」をまく作業。

↓

ウッドチップがクッションになり、足や腰への負担が軽減されると喜ばれています。



「鹿田山環境保全ネットワーク事業 フットパス整備」(年1回)

地域の人々と連携しての環境整備活動

毎年、高等部全員と保護者有志が参加している行事で、地域の方々と一緒に作業をしている。コロナ前には、お昼にカレーライスが振る舞われ、生徒達も楽しみにしていた。地域と連携して環境整備に貢献し、人々との交流にも有意義な活動。



②駐車場整備作業 トイレ掃除 花だん整備

環境保全班に配属される生徒

- ・対人関係に苦手意識がある
- ・挨拶することが苦手
- ・体力に自信がない

↓

自分でも自覚し、改善したいと思っているができない…変わりたい…できるようになりたい!



鹿田山作業中には毎回多くの挨拶が交わされるとともに、利用者さんが生徒へ「いつもありがとう」と感謝の言葉を伝えてくださいます。

↓

その言葉が生徒の『自信』となり『やりがい』にもつながっています。

教育委員会(指導主事)による計画訪問の研究授業
指導主事の指導の講評:

「まさに“社会に開かれた授業”で、授業として地域貢献ができるのはとても良い取り組み。障害を持っていると、支援をされるばかりと思いがちだが、地域貢献を通して生徒はやりがい、達成感を持ち、地域との一体感が生まれる」



③鹿田山 さつまいも畑 管理作業

鹿田山の畑を利用し、鹿田山ネットワークが企画。本校をはじめ、地域の障害者施設や保育園10団体が参加。

- ・5月：畝作り
- ・6月：苗植え (大間々高校との交流)
- ・10月：芋掘り

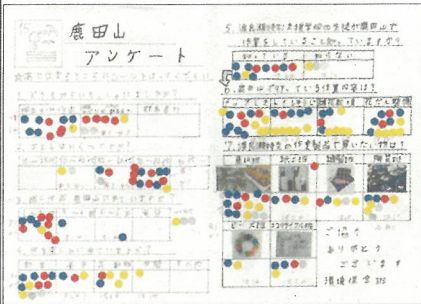


④鹿田山 綿花栽培 菜種作業

鹿田山の畑でNWと協同で栽培。綿花種まきをして収穫。収穫したものは、綿繰りで種を取り、綿打ちで空気を入れてふわふわに仕上げ、縫製班に納品します。



今年度、利用者さんに「渡良瀬特別支援学校の環境保全班を知っているかどうか聞いてみよう！」とアンケートを行いました。声を掛けることに抵抗のある生徒がアンケート収集中、直接利用者さんから「いつもありがとう！」と言われたことで激変し、自分から利用者さんを見つけて声を掛けていました。



本校の特徴である『鹿田山』を通して、自然から学び、地域とのつながりの中で、児童生徒が自らの課題を見つけ、解決に向け努力し、社会に自立してほしい。

課題としては「ホールスクール・アプローチ」

どのように学校全体、先生・生徒を巻き込んでいったらよいか…ユネスコ係としては、先生方に「今取り組んでいることがESD(SDGs)の意味を持つ」という意味付けや一緒に進める仕掛けづくりを模索中です…

